

令和4年11月1日

## 京都経済情勢報告

(令和4年10月判断)

### 1. 総論

#### 【総括判断】「京都府内の経済情勢は、持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### （判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	4年度は増益見込みとなっている	→

#### 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外経済の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「持ち直している」

**百貨店・スーパー販売**は、スーパーでは、客足が減少しているものの、飲食料品を中心に横ばいの状況にあり、百貨店では、好調な高額品に加えて、衣料品や菓子類などの外出関連需要が高まり、緩やかに回復しつつある。

**コンビニエンスストア販売**は、繁華街や観光地の店舗において、週末を中心に順調に回復を続けており、緩やかに持ち直している。

**乗用車の新車登録届出台数**は、消費者の購買意欲はあるほか、供給面の制約に伴う影響が残るものの、改善の兆しがみられることから、緩やかに持ち直しつつある。

**家電販売**は、節電意識の高まりにより、省エネ性能に優れた高機能・高価格帯の白物家電を中心に売上が堅調に推移しているなど、緩やかに持ち直しつつある。

**ドラッグストア販売**は、外出機会の増加により、日焼け止めや化粧品などが好調であることに加え、感染症の影響による関連商品の売上が大きく伸びており、緩やかに持ち直している。

**ホームセンター販売**は、外出機会の増加により、前年好調であったDIY用品や園芸用品の売上も減少しており、インテリア関連は引き続き低調となっているため、横ばいの状況にある。

#### 観光動向 「緩やかに回復しつつある」

**観光動向**は、客室稼働率の増加傾向が続くなか、全国旅行支援等により順調に予約も入っていることから、緩やかに回復しつつある。

- 時計や宝飾品などの高額品に加えて、お土産などの菓子類が好調となっており、来店客数、売上ともに上昇傾向が続いている。入国制限が緩和されれば、円安の効果もあり、インバウンド需要の増加が見込めるため、回復の動きがさらに加速するのではないか。(百貨店)
- 外出や外食の機会が増えているため、来店客数が減少しており、食料品の値上げにより単価が上がっているものの、売上、利益ともにほぼ横ばいとなっている。10月からは値上げされる品目がさらに拡大しているため、今後節約志向が高まり、買い控えが進むのではないかと懸念している。(スーパー・中小企業)
- 外出機会の増加に伴い、繁華街や観光地の店舗は、週末を中心に持ち直しの動きが続いており、順調に回復している。入国制限が緩和されて外国人観光客が増加すると、平日昼間の売上も戻ってくるのではないかと期待している。(コンビニエンスストア・大企業)
- メーカーからの納車状況については、肌感覚的には少しずつ改善しており、客足は変わらず好調となっている。先行きについては不透明な部分が多いが、緩やかな改善傾向が続くのではないかと。(自動車販売・中堅企業)
- 電気料金の引き上げが取り沙汰されていることもあって、節電意識が高まっており、エアコンや冷蔵庫、洗濯機などの買替え時には、多少値が張っても、省エネかつ高性能な商品を購入されるケースが多く、販売は堅調。(家電量販店・大企業)
- 日焼け止めや酔い止め薬といったレジャー関連の商品や、化粧品の売れ行きが好調となっている。また、感染者数の増加に伴い、抗原検査キットを買い求める人が増え、売上、利益ともに大きく押し上げている。(ドラッグストア・中小企業)
- 感染者数は増加したものの行動制限がなかったため、巣ごもり需要はみられず、来店客数が減少している。前年好調であったDIY用品や園芸用品の売上も減少しており、インテリア用品は、生活必需品ではないため低調が続いている。(ホームセンター・大企業)
- 全国旅行支援の影響で、早期及び平日の予約も増えており、秋の行楽シーズンを迎え、客室稼働率は好調となっている。また、コロナ禍前と比較すると依然として低水準ではあるが、入国制限の緩和により、外国人比率も増加傾向にある。(宿泊・中堅企業)

#### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

**鉱工業生産指数**は低下しているものの、中国における経済活動抑制の解除以降、回復傾向にあることから、生産活動は緩やかに持ち直している。また、企業ヒアリングでは、原材料価格の高騰や部材の調達難による影響があるものの、半導体やEV関連の設備投資需要は旺盛であり、受注は高水準を

維持しているとの声が聞かれている。

- 次世代半導体やEV関連の設備投資需要は旺盛であり、受注は高水準を維持している。将来を見越した設備投資が行われているため、足下の景気にはあまり左右されることなく、今後も好調が続く見通し。(電気機械・大企業)
- 自動車向けや産業機器向けは、EVの生産台数の増加や、自動化・省人化の流れから、中長期的に需要が拡大していくと見込んでいる。(電気機械・大企業)
- 国内、海外ともに、カーボンニュートラルの大きな流れから引き合いが強くなっているが、部材の調達難から受注残が積み上がっている状況。設計変更や調達先を複数に増やすなどして、生産体制を強化することが喫緊の課題となっている。(業務用機械・大企業)
- 中国のロックダウンや車載半導体不足により、4月～5月は生産が落ち込んだが、供給制約が徐々に緩和していることから、状況は好転している。部品調達難の影響はまだまだ残るものの、挽回生産できる体制になりつつある。(輸送用機械・大企業)

## ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

**有効求人倍率**は緩やかな上昇傾向が続いており、宿泊・飲食サービス業を中心に、需要回復への期待から新規求人数が増加しているなど、雇用情勢は持ち直しつつある。

- コロナ禍において新卒採用は見送り、必要に応じて中途採用で対応していたが、水準としてはまだまだではあるものの、売上が徐々に回復してきているため、将来を見据えて3年ぶりに新卒採用を再開した。(繊維・中堅企業)
- 生産能力拡大のために増員しているものの、充足するまでには至っていないため、システム投資も積極的に行い、生産過程における省人化・効率化もあわせて進めている。(生産用機械・中堅企業)
- 稼働率が上昇するに伴い、人手不足が深刻化している。アルバイトやパートを新たに確保できないため、部門をまたいだ応援体制により何とか凌いでいるが、今後、コロナ禍前の稼働率にまで回復すると、人手不足により営業できないリスクがある。(宿泊・中堅企業)
- 観光需要喚起策への期待感から、宿泊・飲食サービス業をはじめ、卸売業や小売業などからも求人が増加している。また、ウェディング関係や留学生支援を行う日本語学校など、コロナ禍では見られなかった求人が出始めている。今後、観光関連産業を中心に、さらに募集活動が活発化すると見込んでいる。(官公庁)

## ■ 設備投資 「4年度は前年度を上回る見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

製造業では、はん用機械などが前年度を下回っているものの、電気機械、生産用機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

非製造業では、学術研究・専門・技術サービスなどが前年度を下回っているものの、不動産、宿泊・飲食サービスなどが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

## ■ 企業収益 「4年度は増益見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

製造業では、化学などが減益となるものの、情報通信機械、繊維などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

非製造業では、医療・教育などが減益となるものの、不動産、宿泊・飲食サービスなどが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

## 【その他の項目】

### ■ 住宅建設

**新設住宅着工戸数**(後方3か月平均)で見ると、前年を下回っている。

### ■ 公共事業

**前払金保証請負金額累計**で見ると、前年を上回っている。

### ■ 企業倒産

**倒産件数**は、前年を上回っている。

### ■ 企業の景況感

**法人企業景気予測調査(4年7～9月期調査)**の景況判断BSIで見ると、現状判断は全産業で「下降」超となっており、規模別では、大企業では「上昇」超、中堅企業では「上昇」と「下降」が均衡、中小企業では「下降」超となっている。先行きについて全産業で見ると、4年10～12月期は「上昇」超に転じ、5年1～3月期は「下降」超に転じる見通しとなっている。